

## 有明海講座「有明海の赤潮」を開催しました。

平成21年2月19日(木)にアバンセ(佐賀市)にて本城凡夫名誉教授(九州大学大学院農学研究院)をお招きし、有明海講座「有明海の赤潮」(CPDS認定講習会)を開催しました。当日は約60名の参加がありました。

有明海に発生するシャットネラ属赤潮、アカシオ・サンギネア赤潮、珪藻赤潮について話題提供いただき、瀬戸内海と有明海におけるシャットネラ属赤潮の研究成果をお話いただきました。

瀬戸内海と有明海では水深の違いから発生機構が異なってくるということや、播磨灘のシャットネラ赤潮の予察システムの開発では90%以上の確率で予察可能で、有明海におけるシャットネラ赤潮発生の前提条件や有明海でもシャットネラ赤潮の予察システムが可能になるだろうということです。

講演後も活発な質疑が行われました。

なお、今回は初めて平日に開催し、また、CPDS認定講習会ということでいつもより多くの支援会員の方々に参加いただきました。



本城凡夫名誉教授



会場の様子

## 有明海研究意見交換会開催のお知らせ

当機構が平成20年度に助成、委託した研究の成果発表とタイラギ等二枚貝類の激減で問題になっている有明海湾奥部の再生方策についての意見交換を開催しますのでご参加ください。

■日 時:平成21年5月24日(日)13:30~16:30

■場 所:佐賀大学工学部6号館(佐賀市本庄町1番地)

■定 員:100名

### ■プログラム

I. 再生機構研究事業の成果報告について(1時間30分)

II. 有明海湾奥部の再生策の検討について

—有明海再生方策検討事業の実施に向けて—(1時間30分)

# 入場無料



## 環有明環境情報データベースサイトを公開しました!

有明海に関する調査や研究は長期にわたり進められてきており、学術研究機関や個人の研究者などにより活発な活動が続けられています。

有明海だけでなくその周辺地域全体を考える場合、有明海に注ぎ込む河川の源流にはじまり、流域の社会活動から有明海自体の環境状況に到るまで非常に幅広く膨大な情報を考慮することが必要です。

また、今後の研究効率や精度を高めていくには数々の研究成果や調査結果などの共有が求められています。

このような背景を踏まえ、当機構では環有明環境情報データベースの運用を開始し、有明海の環境改善を促進するために、一方通行の情報提供だけではなく、有明海の研究者や関心のある一般の人々が集い、双方向の情報提供やコミュニケーションが実現できるウェブサービスを始めました。

### サイトの概要

有明海周辺の環境に関連するデータについて、検索・地図表示・掲示板・Wikipedia(ウェブ版百科事典)の各機能をウェブ上で利用できます。

The image shows a screenshot of the website interface. On the left, there is a search results table with columns for 'No.', 'Title', and 'Content'. The table lists several data entries related to environmental information. On the right, there is a map of the Ariake Bay area with various colored overlays representing different data points or zones. A large speech bubble in the center contains the text 'コミュニケーション' (Communication) and describes the forum and Wikipedia integration features. Below the map, another speech bubble describes the '地図表示' (Map Display) feature. At the bottom, a third speech bubble describes the '登録データ検索' (Registered Data Search) feature.

**コミュニケーション**  
情報の交換を行う掲示板や、環有明環境版Wikipedia(ウェブ事典)の作成機能があります。

**登録データ検索**  
登録されているデータの検索を行います。

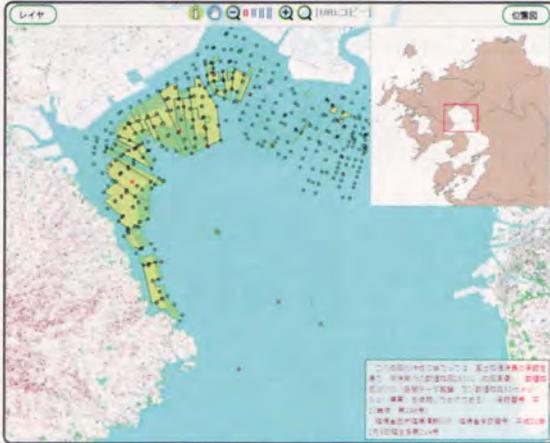
**地図表示**  
登録されたデータを地図表示画面で確認できます。

『環有明環境情報データベース』 URL <http://kankyo.npo-ariake.jp/>

あるいは、NPO法人有明海再生機構ホームページ (<http://www.npo-ariake.jp/>) から。

**地図表示**

検索したデータを地図画面に表示し、確認することができます。



- 検索結果リストより表示したいデータを複数選択し、地図上へ重ねて表示します。
- データの属性テーブルやメタデータの確認が出来ます。
- 登録データのダウンロードが出来ます。  
(ESRI Shape形式ファイルその他)

データのダウンロードは会員ユーザーのみ可能です。

**掲示板  
Wikipedia**

登録データの公開だけでなく、一般の利用者や会員ユーザーも含めた情報交換を行います。

環有明エリアや登録データに関する情報交換を行うための掲示板機能を提供します。またWikipedia（ウェブ版百科事典）への情報の登録を随時行っていきます。（Wikipediaの編集は会員ユーザーのみ可能です。）

**登録データ**

現在登録されているデータだけでなく、今後も随時追加登録を行います。

**■背景地図データ**

- 国土地理院発行の数値地図
- 2万5千分の1地図画像
- 2万5千分の1空間基盤
- 2万5千分の1 50mメッシュ標高

**■環境省関連のデータ**

- 自然環境情報GISデータ
- 植生調査
- 干潟調査
- その他

**■有明海に関するデータ**

- 公開時点では有明海(佐賀県海域)地理情報図のデータを登録しています
- 海底地形(等深線ライン・ポリゴンデータ)
- 海苔・貝類・カキ等の養殖の位置(ポリゴンデータ)
- 鋼管の位置(ポイントデータ)



**ご協力ください！！**

皆さんがお持ちの有明海に関する情報をご提供ください。たくさんの情報を集めて皆さんで共有し、使いやすく便利なデータベースにしていきたいと思います。

## 支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様)

### 第7号 復建調査設計株式会社福岡支店 様

#### 過去からの環境変化を調べ、有明海の再生に活かします。



自然環境の変化を適正に評価することは容易ではありません。しかし、自然環境の変化を調べなければ今後の自然再生の方向性を見失いかねません。

そこで我々は地質学のノウハウを用いて、過去の環境を調べるといった調査手法を様々な大学の研究者らと共同で開発してきました。特に、我が社ではジオスライサーという地層を採取する独自の調査手法を用いて調査・解析力を向上させてきました。

干潟などでたまった堆積物には過去の自然環境情報がつまっています。昔はどんな底質だったか、どんな貝が多かったか等、色々な情報を読み取って、環境変化の長期的な傾向を知ることができます。過去を調べることで今後の環境変化を予測することができます。今後も有明海がより良い環境になるために我々の技術を活かしていきたいと思えます。

<お問い合わせ>

復建調査設計株式会社福岡支社 TEL: 092-471-8324 ホームページ: <http://www.fukken.co.jp> <http://geoslicer.com>

## 「有明海再生に関する研究等助成」の募集について

今年度も「有明海再生に関する研究等助成」の募集を会員の皆様を対象に行います。

これは、有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する研究等を推進するため、調査・試験・研究に必要な経費、または、国等へ研究費助成を申請するための準備調査・試験・研究に必要な経費を助成するものです。

なお、詳細につきましては、当機構からのご案内、又はホームページの募集要項を参照ください。(6月上旬に掲載予定)

### 支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体…一口 5万円**      **個人…一口 1万円**

## 編集後記



毎号、当機構の会員の皆様の有明海再生へ向けての活動、環境問題への取り組み等を紹介しております。会員の皆様、掲載希望の情報等ございましたら、事務局までご連絡ください。皆様の情報をお待ちしております。

## 発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市城内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用) : 0952-26-7050

E-mail : [npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp](mailto:npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp)

ホームページ : <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままです。